

2020年度「知の甲子園」募集要項 ～日本一の経営者を目指して意思決定力を競おう～

「知の甲子園」とは

全国の中学・高校の総合的な学習の時間、大学の経営学科の授業などに導入されているMESE（ミース：Management Economic Simulation Exercise）を使った全国大会「知の甲子園」を開催いたします。授業で体験済みの方はもちろん、初めてトライする方でも参加可能です。募集要項をよく読んでルールに同意の上、ウェブサイト上の申し込みフォームから参加登録して下さい。全国の若者が集う「知の甲子園」で、日本一の経営者を目指して情報分析力・判断力・意思決定力を競い合しましょう。

主催

公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本



特別協賛

SAPジャパン株式会社



ビジネスの世界へようこそ！～MESEとは？～

皆さんが経営するのは、「エコペン」というコンピュータ化され、書いたものを記憶し自動的に再生できる仮想上の商品を製造・販売する会社です。チームに付与されるパスワードでダウンロードする2種類の経営レポートを分析し、エコペンの価格・生産量・宣伝広告費・設備投資額・研究開発費の5項目を決定します。チームメンバーでディスカッションして決めたこの内容を所定のウェブサイトから送信すると、締切後に最新の経営レポートがダウンロード可能になります。再びレポートを分析して5項目を決定する...という作業を各予選数回ずつ繰り返します。チームの順位は、経営レポートに組み込まれているMPI（Management and Performance Index）という格付指数のスコアの高さによって決められます。

MESEは、起業家や将来の経営者を育てることが目的ではありません。会社経営を通じて、意思決定には「結果」と「責任」が伴うことを体験から学び、広い視野にもとづく情報分析力・意思決定力・他人と違う意見を持つ勇氣・自分と違う意見に対する寛容性・コスト意識など、社会生活に不可欠な基本的資質を育むことを目的としています。

なお、MESEはジュニア・アチーブメント米国本部で開発された教育プログラムです。授業に導入するための手続きにつきましては、先生からジュニア・アチーブメント日本までお問合せフォームからご連絡ください。学校教員以外の一般の方および生徒さん個人への配布・販売は一切行っておりません。

スケジュール（予定）

日程	予定
2020年10月25日（日）	エントリー締切
11月6日（金）～12月18日（金）	一次予選
2021年1月8日（金）～2月5（金）	二次予選（一次予選通過チームのみ）
2月21日（日）	決勝戦 ※オンライン実施となります

アワード

優勝チーム：奨学金15万円、準優勝チーム：10万円、第3位チーム：6万円

※4位～8位のチームにも参加賞としての奨学金が授与されます

参加資格

- ①日本国内在住の中学・高校・短大・大学の14歳～20歳まで（2021年3月31日時点）の生徒・学生。
- ②各チームの代表Eメールアドレス（携帯電話のアドレス不可）を登録できること。
- ③担任、ゼミ、もしくは他所属校の先生の了解を得て申し込むこと。異なる学校同士でチームを組む際は、メンバーどなたかの先生を登録していただければ結構です。
- ④1チームは2名以上でチームを組むこと。
- ⑤1名での参加および1名が複数チームへ所属して参加することはできません。チームメンバー数に上限はありませんが、決勝戦へご招待するのはチーム内の2名です。
- ⑥次頁の参加ルールをよくお読みいただき、同意した上での申込であること。
- ⑦事後アンケートにご協力いただくこと。
- ⑧決勝戦では、写真および動画撮影を行い、ジュニア・アチーブメント日本やSAPジャパンの公式ホームページやSNSに掲載いたします。撮影に同意できることを参加条件とします。

お申込み：2020年10月25日（日）必着

下記URLもしくは右記のQRコードより、エントリーフォームにアクセスしてお申込み下さい。

<http://bit.ly/2ITXM2B> ※締切後は自動的にフォームがクローズされます

お問合せ ※必ずメールでお願いいたします

公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本

「知の甲子園」担当：黒木

Eメール：yorikr@ja-japan.org



参加ルール：エントリーは下記全てに同意したものとみなします。

1. 2020年度MESE全国大会「知の甲子園」（以下「知の甲子園」）は、ジュニア・アチーブメントの Management Economic Simulation Exercise（MESE）を使用して実施する。
2. 参加全チームは8チーム以内毎にグループ分けされ、各グループをひとつのマーケットと仮想して対戦する。
3. 毎ピリオド、5つの意思決定項目（価格・生産量・宣伝広告費・設備投資額・研究開発費）を同時に提出する。
4. 各グループの順位は、Management and Performance Index（MPI）のスコアの高い順に決定。同点の場合は、累計利益額の高い方を上位とする。
5. 意思決定数値の範囲（価格の上限・下限、生産量の範囲、宣伝広告費・設備投資額・研究開発費の上限）は、各予選ごとに告知される。
6. 使用可能な資金を超えた意思決定は、「知の甲子園」事務局が資金の範囲内に予告無しに変更する権限を有する。
7. 告知される締切日時までに意思決定が提出されない場合は、前回の意思決定内容が自動的に適用される。ただし、意思決定の未提出は2回（1ラウンドにつき）まで。3回目以降は、参加継続の意志が無いものとみなし、予告無しに失格とする。
8. 意思決定提出締切日は、1次予選は1週間ごと、2次予選は3～4日毎の「知の甲子園」事務局で定めた日にちとする。各予選の意思決定締切日は、参加チームに告知する。
9. 意思決定の締切時間は、毎回日本時間の午後5時とする。送信時点の時間ではなく、「知の甲子園」事務局到着の時間とするので、余裕を持って提出する。
10. 参加者1名が所属できるのは1チームのみとする。同一人物が複数チームに所属して参加していることが判明した場合は、その人物のみならず、所属していたチームも失格とする。
11. 参加する際は、所属校の担任・ゼミ担当教官・クラブ顧問その他教員に了解をとってから参加すること。（申込フォームの所定欄に教員名を記載する。「知の甲子園」事務局から確認の連絡が行く場合がある）
12. 申込フォームの記載内容に虚偽があることが判明した場合、失格となる場合がある。
13. 「知の甲子園」事務局は、意思決定の内容がその意図のある無しに関わらず、例えば価格を原価を大きく割れるものにするなど、合理的な説明のつかない明らかに市場を混乱させるものであると判断した場合に、その内容を訂正する権限を持つ。なお、その意思決定を提出したチームにはその根拠を聞き、意図のあるなしに関わらず、結果的に「知の甲子園」を著しく混乱させたと事務局が判断した場合、失格とする。
14. 参加資格は、日本国内在住の中学・高校・短大・大学の14歳～20歳までの生徒・学生とする（2021年3月31日時点）
15. 決勝戦は、コロナ禍のためオンライン実施にするが、ネット接続のためにかかる費用とデバイスは各自負担で用意する。
16. 参加チームは、「知の甲子園」およびMESEの主旨を理解した上で、事務局の定めるルールに則ってフェアに対戦する。安易な途中棄権など教育プログラムに相応しくない態度が認められた場合には、今後そのチームの所属校からの参加を一定期間認めない場合がある。
17. 「知の甲子園」に関わる質問および異議申し立ては、主催者である公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本に対して行なわれるものとする。なお、最終判定を行なう権限は、「知の甲子園」事務局である公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本が有するものとする。
18. MESE関連資料の著作権は、公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本が所有する。したがって許可無く、「知の甲子園」に参加することで入手した経営レポートなどのMESE関連資料を、個人研究（学会・卒業論文等を含む）のための使用、販売、貸与（研究会等での研究対象としての使用、他者からの資料要請に応じることを含む）、個人・学校を問わずウェブサイト、ブログ、FacebookやTwitter等のSNSで公開することは不可とする。
19. 決勝戦の様子は、広報活動の一環として写真・ビデオ撮影を行い、ウェブサイトやポスター、パンフレットで公開し、会場に新聞やテレビなどの取材が入る場合もあるため、参加者はこれらを了解したものとする。

公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本について

米国で発足した世界最大の経済教育団体で、今年設立100周年を迎える民間の非営利団体です。日本本部の設立は1995年で、教材を導入する学校は全国に拡大しています。社会情勢がいかように変化しようとも、子どもたちが「社会のしくみや経済の働き」を正しく理解し、自分の確たる意志で進路選択・将来設計が行えるよう、基本的資質（主体的に社会に適応できる力）を育むための支援を提供しています。詳しくは、ウェブサイトwww.ja-japan.org をご参照ください。

SAPジャパンについて

SAPジャパンについて

SAPジャパンは、SAP SEの日本法人として1992年に設立されました。SAPはインテリジェントエンタープライズを基盤とするエクスペリエンス企業として、エンタープライズ・アプリケーション・ソフトウェアの市場をリードし、あらゆる業種・規模の企業の成功を支えています。世界中の商取引売上の77%は何らかのSAPシステムを使用しており、SAPのマシンラーニング、IoT、高度なアナリティクスの技術は、企業のビジネスを「インテリジェントエンタープライズ」に変革していくことに寄与しています。SAPは、人々や組織が的確なビジネス判断を行うための洞察力を深めるサポートをし、高い競争優位性を実現するための協業を促進しています。よりシンプルになったSAPの技術により、企業はボトルネックにわずらわされずに目的に沿ってソフトウェアを最大限に活用できるようになります。SAPのエンド・ツー・エンドのアプリケーションスイートとサービスは、世界25業種における企業および公共事業のお客様が利用し、ビジネスにおいて利益を上げ、絶え間ない変化に適応し、市場における差別化を実現するサポートをしています。お客様、パートナー、社員、ソートリーダーなどのグローバルネットワークを通して、SAPは世界をより良くし人々の生活を向上させることに貢献しています。

(www.sap.com/japan)

Copyright© 2020 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

SAP、SAPロゴ、記載されているすべてのSAP製品およびサービス名はドイツにあるSAP SEやその他世界各国における登録商標または商標です。またその他記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する各社の登録商標または商標です。



2019年度決勝戦の参加者